



KAWASAKI CITY



地域とともに未来に羽ばたく

川崎市立 川崎病院

Kawasaki Municipal Hospital

地域医療支援病院／神奈川県がん診療連携指定病院

日本医療機能評価機構認定病院

卒後臨床研修評価機構認定病院

基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。

2016年1月

病院運営方針

基本理念を踏まえ、自治体病院の使命と役割を果たし、市民に信頼される安全安心で質の高い医療を継続的かつ効率的に提供していくために、次の方針を定めます。

- ① 患者さんの声を尊重し、高い倫理観をもって医療にあたります。
- ② 地域の基幹病院として、地域の医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる、良質な急性期医療および専門性の高い医療を提供します。
- ③ 救急医療、がん医療、周産期医療、災害時医療の充実を図ります。
- ④ 地域の医療機関との連携を大切にします。
- ⑤ 教育、研修を推進し、職員の知識、技術の向上と人材育成に努めます。
- ⑥ 安全管理の向上に努めます。
- ⑦ 健全な経営基盤の確立に努めます。
- ⑧ 職場の経営意識の高揚を図るとともに、働きがいのある職場づくりに努めます。

2016年1月

院長挨拶

当院は、市の基幹病院として高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院としての機能も担うなど、地域医療水準の向上に寄与してまいりました。また、引き続き市立病院としての役割を担うため、高度脳神経治療センターや患者総合サポートセンターの設置、ロボット手術装置 da VinciやPET-CTの導入など、更なる高度な医療提供体制作りを進めてまいります。

今後訪れる未曾有の超高齢少子化が進む状況においても、的確にニーズに応えられる病院として運営するため、ハード整備に加え、直接傷病者に関わる医療職・病院職員の医療技術はもとより、その手のぬくもりや職業意識、知恵や工夫がますます重要になってまいります。先行き不透明な現代ですが、信頼される市立病院としての未来はどうあるべきか、職員と共に考えながら、歩みを進めてまいりたいと考えております。



第17代 病院長
金井 歳雄

■ 施設

敷地面積	19,813m ²
建物面積	6,325.94m ²
延床面積	49,890.18m ²
構造	鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
竣工	平成12年(2000年)

■ 病床数

713床
(一般:663床、精神:38床、感染:12床)

■ 診療科目

内科	肝臓内科	形成外科	耳鼻咽喉科
呼吸器内科	緩和ケア内科	血管外科	リハビリテーション科
循環器内科	外科	精神科	放射線診断科
消化器内科	呼吸器外科	リウマチ科	放射線治療科
糖尿病内科	心臓血管外科	小児科	病理診断科
内分泌内科	消化器外科	皮膚科	救急科
腎臓内科	乳腺外科	泌尿器科	麻酔科
神経内科	小児外科	産科	歯科
感染症内科	整形外科	婦人科	歯科口腔外科
新生児内科	脳神経外科	眼科	

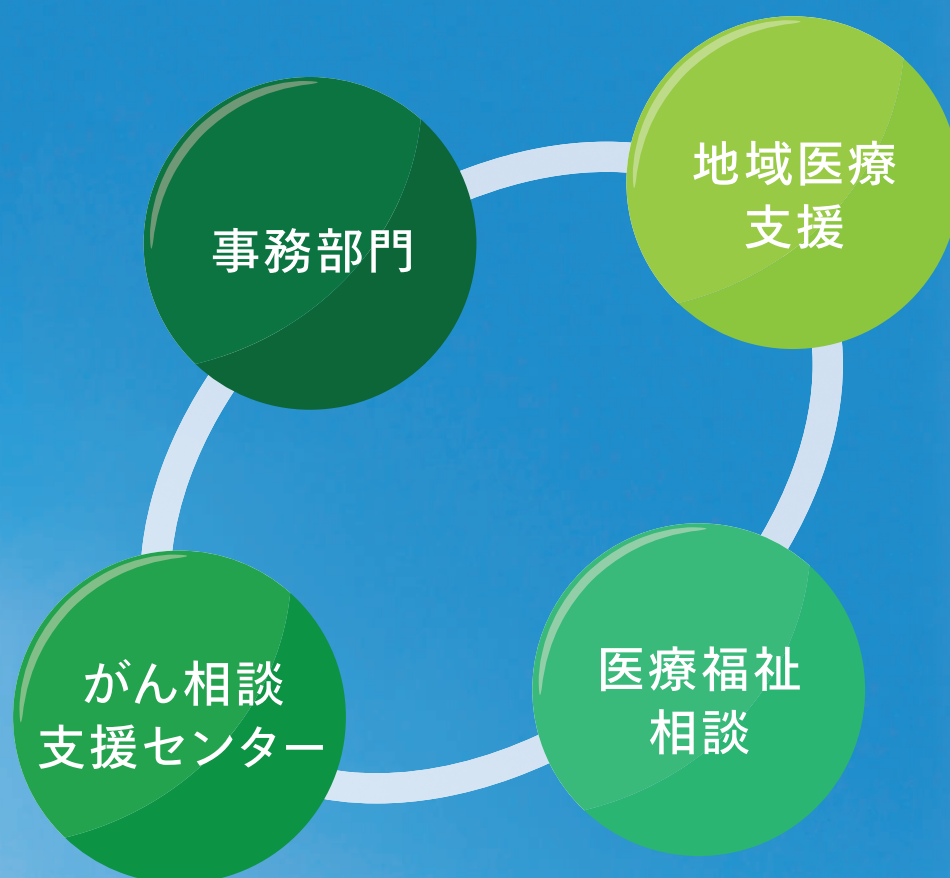
■ 沿革

昭和11年12月	伝染病院として川崎市立病院開院	平成17年4月	病院局の設置 地方公営企業法の全部適用
昭和20年6月	総合病院となり「川崎市立川崎病院」と改称	平成18年1月	(財)日本医療機能評価機構の認定病院
昭和40年8月	救急病院指定	平成18年4月	救命救急センター開設
昭和43年7月	臨床研修病院指定	平成20年6月	市内救急医療派遣事業(Kawasaki ONE PIECE)開始
昭和53年9月	ICU開設	平成21年7月	川崎DMAT設置病院として指定
平成7年7月	新病院着工	平成22年4月	神奈川県地域周産期母子医療センターとして認定
平成10年3月	災害医療拠点病院指定	平成22年12月	卒後臨床研修評価機構の評価
平成11年1月	NICU開設	平成23年3月	神奈川DMAT指定病院として指定
平成13年4月	新病院完成	平成28年3月	地域医療支援病院の名称承認
平成14年4月	精神科救急24時間体制の開始 川崎市南部小児急病センター開設	平成29年3月	神奈川県がん診療連携指定病院として指定
		平成31年4月	神奈川県難病医療支援病院として指定

地域医療部は、平成30年（2018年）4月1日からその組織・業務内容を一部変更し、新たに「患者総合サポートセンター」としてスタートしました。

患者総合サポートセンターは、地域医療支援、医療福祉相談、がん相談支援センター、事務部門で構成されています。

地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化、患者さんへの質の高いきめ細やかな支援を行う相談支援体制を整え、地域や社会の架け橋となれるように努めています。



地域医療支援



前方連携 地域の医療機関からの受付や相談窓口として、以下の業務を行っています。

- 外来診療の事前予約受付
- 地域の医療機関からの緊急受診受付と病床確保
- 医療機器共同利用受付
- かかりつけ医の相談、ご案内
- 診療情報提供書の管理
- 転院調整

入退院支援・調整

入院中の患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、その人らしさを大切に多職種と協働し、退院支援や調整を行っています。また、外来NSと連携し、外来通院中の患者さんの在宅療養支援を行っています。

医療福祉相談



病気やけがをきっかけに生じる生活上の問題について、医療ソーシャルワーカーが社会福祉の立場からご相談に応じています。患者さんやご家族と一緒に考え、問題解決の支援を行っています。

がん相談支援センター



患者さんやご家族等に信頼できる情報提供を行うことで、その人らしい生活や治療選択ができるように相談支援を行っています。がんと診断されたときから、治療・治療の副作用・仕事・日常生活のことなど、どのようなことでも相談を受付けています。

当院は平成29年(2017年)4月より、神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受けています。今後は川崎市南部二次医療圏の診療中核病院として、専門的ながん診療機能の充実を図るとともに、住民の皆さまにさらに安心かつ適切ながん医療を提供することを目指してまいります。

■ 内視鏡センター

当院は日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されており、各診療科の医師が横断的に連携し最良のがん診療を志しています。内視鏡センターでは消化器、呼吸器それぞれの分野でNBI・拡大観察、超音波内視鏡、ナビゲーションシステムなどを取り入れ、精度の高い内視鏡診断と治療を提供しています。消化管がんをはじめ、発見の難しい膵臓がんなどに対しても積極的な早期診断を行う体制を整えています。



■ 外来治療センター

外来治療センターは、外来通院しながら、抗腫瘍薬や、生物学的製剤による治療を受ける患者さんが、安心して治療を受けられるように設置された施設です。

快適に治療を受けられるように、リクライニングチェア、ベッドが用意されており、専任の看護師が治療中の患者さんの看護にあたります。

看護師は治療に関するご相談にも対応しており、院内の「がん相談支援センター」とも連携をとっています。

治療に使用する薬剤は、薬剤調整室で、薬剤師が無菌的に調整しています。

■ ダ・ヴィンチ (da Vinci)

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ (da Vinci)」を用いた手術は、開腹手術に比べて出血量が圧倒的に少なく、低侵襲で術後の回復が早いのが特徴です。自由度の高い鉗子操作、鮮明な3D画像により、精細な手術が可能になりました。このことで、前立腺がん手術後の尿失禁に対して、早期回復に高い効果が認められています。



■ PET-CT

PET-CT検査は、18F-FDG (フルデオキシグルコース) という検査薬を注射した後に撮影を行い、細胞の状態や働きをみる検査です。がんや心臓・脳の病気の診断に役立ちます。18F-FDGは、放射性核種のフッ素 (18F) で標識された、ブドウ糖によく似た構造の薬剤です。

がん細胞はブドウ糖の代謝が活発なため、正常な細胞の3~8倍ものブドウ糖を取り込みます。

この性質を利用し、がん細胞が18F-FDGを取り込む様子を画像化することで、がんの有無や位置を調べることができます。

当院では、理念にある『安全・安心で質の高い医療』を提供できるようスタッフ一丸となり、チーム医療を実践しています。



NST(栄養サポートチーム)

食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士など、多職種が連携して活動を行っています。



褥瘡対策チーム

毎週、皮膚科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士の多職種のメンバーで連携を図り、褥瘡の予防と治療・看護ケアを実施しています。

チ
医



感染対策チーム

実践的チームとして組織横断的に院内における集団発生および感染管理を迅速かつ機動的に活動することを目的に、感染対策チームを設置しています。



RST(呼吸サポートチーム)

人工呼吸器を使用している患者さんを対象に、人工呼吸器からの早期離脱、早期離床、転院あるいは在宅への移行へ向けての支援を行っています。医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士など多職種が連携して活動しています。



緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、患者さんやご家族の抱えるつらさを和らげ、QOL(クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)を向上させることを目的としています。



■ 救命救急センター

平成18年(2006年)4月、救命救急センターが設置されました。重篤な救急患者(3次救急患者)に対応する川崎南部地域の重要拠点となっています。年間1,200~1,500人の3次救急患者が救急搬送されてきます。1階にER(救急室)と9階に救命病棟(EICU 4床、HCU 16床)を配置し、「断らない救急」を目指し24時間体制で対応しております。

■ 救急告示病院

昭和40年(1965年)8月、救急病院(現在の救急告示病院)に指定されました。現在、年間6,000~7,000人の救急搬送患者に対応しております。

■ 小児急病センター

川崎市南部の小児急病センターとして、平成14年(2002年)に開設されました。現在、土・日・祝日および夜間に小児科専門医が初期診療を行っております。

■ 地域周産期母子医療センター

川崎病院では、新生児集中治療管理室(NICU)6床を運営しており、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる施設として、地域周産期母子医療センター(平成22年(2010年)4月認定)の役割を担っています。



■ 高度脳神経治療センター

急性期脳血管障害患者の治療の迅速化・合理化を図るために、平成29年(2017年)4月1日に高度脳神経治療センターを開設しました。脳血管障害(脳卒中)には、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血が含まれますが、高齢化社会に伴い、これらの疾患に対する急性期治療は、ますますその重要性が高まっています。

当センターは、脳神経外科、神経内科、救急科などの複数の臨床科と密な連携を図り、迅速かつ正確な急性期脳卒中治療を提供します。

■ 精神科救急医療

神奈川県精神科基幹病院のひとつとして、4縣市協調体制の精神科救急及び身体合併症を有する急性期の精神科患者の受け入れを行っています。

医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士など多職種によるチームカンファレンスなどを行い、総合病院ならではの社会復帰への支援づくりに励んでいます。

■ 感染症指定医療機関

当院は、川崎市内で唯一の第二種感染症指定医療機関です。感染症病棟は12床で、全室陰圧管理となっています。

入院時に結核を除く2類感染症と診断された場合、感染症病棟へ入院となります。

感染症内科医師や感染管理認定看護師も協力しながら治療、看護にあたっています。

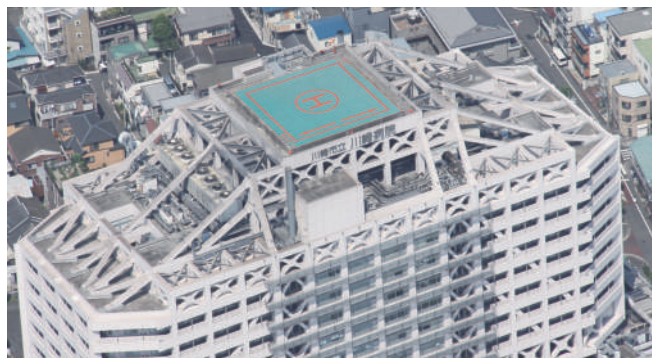
また、行政と協力しながらSARS(重症急性呼吸器症候群)、MERS(中東呼吸器症候群)、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザなどを想定した訓練や勉強会も行っています。



災害拠点病院として各種備蓄の準備やDMATチームの派遣を行っているほか、臨床研修指定病院として医師の教育・指導に取り組むと共に、院内コンサートやキッズセミナーなどを実施し、地域交流にも積極的に取り組んでいます。

■ 災害拠点病院

平成10年(1998年)3月、神奈川県災害医療拠点病院に指定されました。現在、救急現場派遣チーム(ドクターカー)をはじめ、DMAT(災害医療援助隊)2隊を保有しております。また、屋上にはヘリポートを完備し、災害時や多数傷病者発生時、災害協力病院の市立井田病院などと連携し、広域搬送の拠点として対応する体制づくりを行っています。



■ DMAT・ワンピース

川崎病院では、市内で発生した災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する「市内救急医療派遣事業(通称:Kawasaki ONE PIECE)」や、大規模な災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する川崎DMAT(災害医療派遣チーム:Disaster Medical Assistance Team)、さらに、神奈川県内外で発生した大規模な災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する神奈川DMATを有しています。国内で起きた災害において、神奈川DMATとして派遣され、現場で活動した実績もあります。



■ 臨床研修指定病院

川崎病院の研修制度の歴史は古く、昭和42年（1967年）にさかのぼることができます。現在は広く各科を研修するローテイト方式を採用しており、個別カリキュラムを組んで、限られた期間に充実した研修成果が上がるよう努めています。

技能の修得だけでなく「病気でなく『病人』を診る患者さん中心の医療」を理解し、実践できる医師の育成を目指します。院内講演会や各診療科のカンファレンス、CPCなど勉強する機会が多く、多数の指導医から数多くの診療科について指導を受けることができます。



■ 地域交流 コンサート・キッズセミナーなど

患者さんや地域の皆さまに向けてボランティアによる院内コンサート、健康を維持するためのコツや病気との取り組み方のコツをテーマに、わかりやすくなる市民公開講座の開催、地域の子どもたちに模擬体験などをしてもらうことで、医療現場の魅力を知ってもらうキッズセミナーなどを実施しています。



■ 看護部

「私たちは、患者さんと共に考える心のかよいあう看護を提供します」を看護部理念とし「命を守り命を支えられる人材」「暮らしを共に考え、暮らしを支える看護が実践できる人材」の育成を行っています。



■ 薬剤部

調剤、注射薬の混注、持参薬の鑑別、服薬指導はもちろん、医薬品が安全かつ有効に使用できるよう、病院内のさまざまな医療チームが活躍しています。



■ 放射線科

放射線科ではX線撮影、CT、MRI、核医学・PET-CT、カテーテル治療IVR、放射線治療の部門があります。患者さんの安全を第一に、放射線科医師と診療放射線技師、看護師など多職種で連携し、チームで検査、診断、治療を行っています。



■ 検査科

検査科では、生理検査・病理検査・細菌検査・輸血検査・検体検査(ブランチ)を行っています。
認定超音波検査技師(循環器、消化器、体表臓器)、血管診療技師、糖尿病療養指導士、細胞検査士、認定輸血検査技師などの多くの有資格者が、正確・迅速な臨床支援に携わっています。



■ リハビリテーション科

当科では、医師、PT、OT、STが専門性を活かしつつチーム医療を行っております。患者さんがスムーズに自宅退院を果たせるように、また障害を軽減できるようにリハビリテーションを行っております。



■ MEセンター

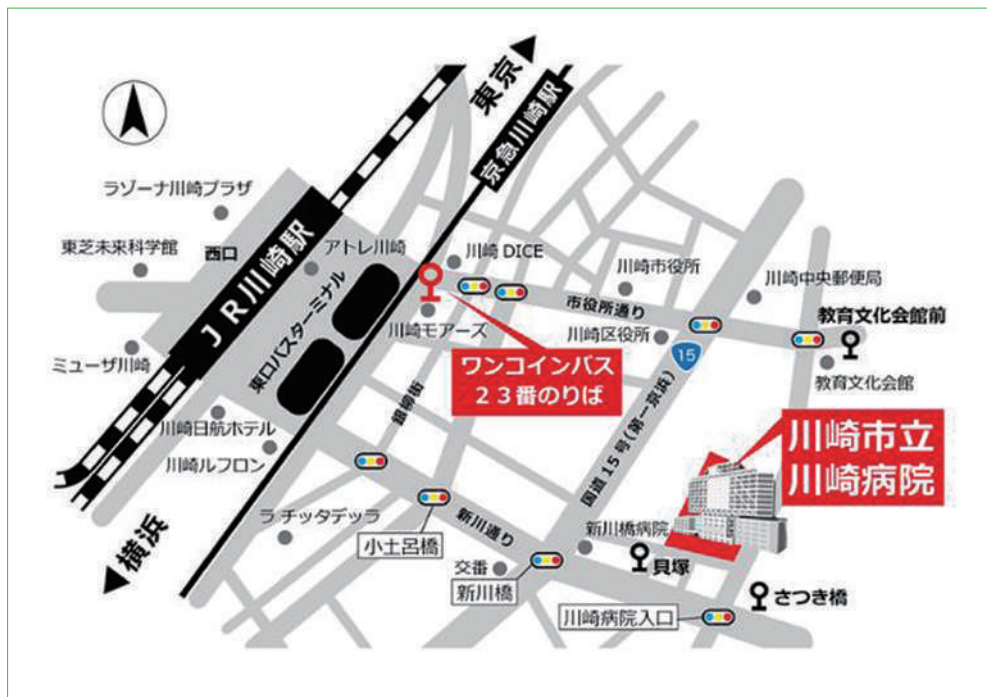
呼吸療法業務、人工心肺業務、人工透析業務、心臓・カテーテル業務、ペースメーカー業務、ME機器保守点検業務、また手術室や内視鏡室業務など多岐にわたる業務を医師・看護師などの他職種の関係スタッフと連携しながら行っています。



■ 食養科

食養科では、9名の管理栄養士が患者さんの栄養管理、栄養指導を中心とした業務をしています。
食事サービスでは、「治療の一環として安全でおいしい食事」の提供を心がけ、委託会社と共に入院患者さんへお届けしています。





■ 最寄駅

JR川崎駅 東海道線にて東京駅から20分、品川駅から11分、横浜駅から8分

■ 市バス

川崎駅東口バス乗り場11/14/15/16番乗り場より約5分、「教育文化会館前」下車、徒歩5分

■ ワンコインバス

川崎駅東口モアーズ前23番乗り場より約8分、直通「川崎病院」行き、大人・小児とも100円、7時40分～18時運行(平日のみ)

■ 臨港バス

川崎駅東口バス乗り場1/2/5/7/8番乗り場より約5分、「さつき橋」下車、徒歩3分

■ タクシー

川崎駅東口より約5分